

## インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 報告21, 375件(前月比10. 9、前年同月比2. 8)で、今季は例年に比べて12月からと早い流行の立ち上がりでしたが、1月に入りさらに急激で大規模な流行の拡大を認めました。ほぼ全県下で流行しており、現在までに報告されているのはほぼすべてA型(H3N2)です。

## 小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

(全体傾向) 報告数25, 364件(前月比 3. 6, 前年同月比 2. 0)で、前月および前年同月を大きく上回って増加しました。例年になくインフルエンザの流行規模が大きかったことが原因です。2番目に多い感染性胃腸炎は減少に転じました。その他の感染症はほぼ横ばいあるいは減少傾向を示しました。その中で件数は少ないものの流行性耳下腺炎が増加した点(前月比 1. 6, 前年同月比 9. 3)が注目されます。

## (疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 報告件数282件(前月比0. 9、前年同月比1. 2)でした。昨年は10月がピークで、11月には減少に転じ、12月、1月と漸減しています。菊池、八代地区からの報告が多いようです。
2. 咽頭結膜熱: 報告数97件(前月比1. 2、前年同月比0. 5)でした。昨年後半は50件前後で推移していましたが、12月に80件、1月は97件と微増しています。菊池地区からの報告が多いようです。
3. A群溶連菌咽頭炎: 報告数312件(前月比0. 8、前年同月比0. 6)でした。昨年9月に最低を示し、その後増加傾向がみられていましたが、1月は減少に転じました。その中で菊池、人吉、宇城地区からの報告が多いようです。
4. 感染性胃腸炎: 報告数2, 525件(前月比0. 8、前年同月比0. 8)でした。昨年12月をピークに1月は減少に転じ、昨年同月よりも少ない数でした。その中で山鹿地区からの報告が目立ちました。
5. 水痘: 報告数188件(前月比0. 8、前年同月比0. 5)でした。昨年は1年を通じて大きな変動なく推移しました。1月は前月と比べ若干減少し、前年同月比で半減しました。水痘ワクチン定期化の効果でしょうか、今後の推移に注目です。
6. 手足口病: 報告数148件(前月比0. 5、前年同月比0. 8)でした。昨年は年間の変動少なく推移しています。1月はこの1年で最も少ない件数でした。
7. 伝染性紅斑: 報告数8件(前月比1. 1、前年同月比0. 6)と、昨年5月から毎月ひとけたの少数で推移しています。その中で1月は天草地区にやや多いようです。
8. 突発性発疹症: 報告数145件(前月比1. 1、前年同月比1. 1)でした。年間を通じてほぼ例年並みの推移を示しています。
9. 百日咳: 報告数0件(前月比0.0、前年同月比0.0)でした。
10. ヘルパンギーナ: 報告数24件(前月比0. 6、前年同月比0. 9)でした。冬季は毎年少なく、例年並みの推移

を示しています。

11. 流行性耳下腺炎: 報告数93件(前月比1.6、前年同月比9.3)でした。昨年は8月を最低として9月以降毎月増加傾向を示していましたが、1月はさらに増加しており、前年同月比で9.3と大幅な増加を認めました。とくに人吉地区からの報告が目立ちます。天草地区も多いようです。今後の動向に注意が必要です。

## 眼科定点

1. 急性出血性結膜炎: 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数25件(前月比0.7、前年同月比0.3)と減少しています。地区別では熊本24件、菊池1件の報告です。年齢別で20～49歳に集中して発症していますが、乳幼児層では少なく、全体の発症件数が少ないことから保育園等での感染拡大の危険性は低いと判断されます。

## STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症: 報告数 63件(前月比 1.5、前年同月比 0.9)で、前月比22件増加し、前年同月比11件減少しています。男女別は、男性23件、女性40件と女性に多く見られています。年齢別は、女性は15～29歳に31件と多く、男性では15～34歳に18件と多く見られています。地区別は、熊本が28件と多く、次いで八代14件、御船7件、宇城6件、菊池・有明4件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症: 報告数 16件(前月比 0.8、前年同月比0.7)で、前月比、前年同月比共に減少しています。男女別は、男性4件、女性12件と女性に多く見られています。年齢別は、女性は20～44歳に、男性は30～59歳にばらついていきます。地区別は、熊本が12件と多く、次いで御船2件、菊池・宇城1件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数は2件(前月比 0.3、前年同月比0.2)で、前月比4件減少、前年同月比は8件減少しています。男女別は、男性のみでした。年齢別は、30～34歳1件、50～54歳1件でした。地区別は、熊本2件でした。
4. 淋菌感染症: 報告数は20件(前月比1.0、前年同月比1.7)で、前月比同数、前年同月比8件増加しています。男女別は、男性に17件と多く見られています。年齢別は、男性は15～39歳に14件と多く、女性は15～19歳の若い層に見られています。地区別は、熊本が18件と圧倒的に多く、次いで菊池・有明1件でした。

## 基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:  
報告数19件(前月比 1.0、前年同月比 0.6)でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:  
報告数7件(前月比 1.8、前年同月比1.2)でした。

### 3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:

報告数0件(前月、前年同月に同じ)でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告数0件(前月 -1、前年同月 -2)でした。
2. 無菌性髄膜炎: 報告数5件(前月比 5. 0、前年同月比 1. 7)でした。
3. マイコプラズマ肺炎:報告数9件(前月比 1. 0、前年同月比 4. 5)でした。前年より増加あり要注意です。
4. クラミジア肺炎: 報告数0件(前月-1、前年同月-1)でした。
5. 感染性胃腸炎: 報告数1件(前月比 1. 0、前年同月比 0. 1)でした。  
(ロタウイルス)

### 届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核:22件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症:1件
- 4類感染症: 報告はありませんでした。
- 5類感染症: 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:1件  
後天性免疫不全症候群:1件  
侵襲性肺炎球菌感染症:5件